

第二協立病院理念 <基本方針>

- ①良質で効率的な医療を提供します。
- ②安全で信頼される医療を目指します。
- ③患者さん中心の医療を実践します。
- ④説明義務責任を果たします。
- ⑤透明性・情報公開を推進します。
- ⑥良きコミュニケーションと信頼関係を築きます。
- ⑦顧客満足（外部・内部）に努めます。

<蘇生術の研修会 ~Dr.ハリー~>

当院では、患者の様態が急変するなどして緊急を要する場合に、院内で対応できる医者を招集するために緊急コールとして「ハリーコール」を行う。そのため、医療安全管理委員会から、緊急コール対応カードを配布し、「緊急時シミュレーション」を行いました。今回は初回トレーニングとして人形・モデルを使い、院内放送後本番さながらの訓練を行いました。直接医療行為をしない部署は、緊急時やAED自体の知識等も少なく、緊急時どうすればよいのかとっさに判断しにくい現状がある為、医療チームでの緊急コール対応が必要になってきます。今回の予行演習を重ねて習熟していきたいと思ひます。



第2回看護・介護合同研究発表会でミニ研修会を開催しました！！

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 筒井佳恵

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる者とされています。その役割として実践・指導・相談といった3本柱が挙げられています。

当法人での認定看護師の活動として、院内勉強会や法人内での集合教育を行っています。認定看護師の育成や市民講座、研究など幅広い活動も求められています。

今回看護師及び、実践の現場で活躍している介護職の方々にも興味を持っていただくため、脳卒中予防10ヶ条を提示し、「脳卒中」に関して発生機序から予防にかけて説明しました。そこで、排便に関してや血圧と食塩摂取量の関係など日頃の関わりの中で気になっていることなど多くの質問が出て、興味を持っていただけたと実感しました。

今回の研修会での学びを生かし、脳卒中に関しての情報を発信していきたいと思ひます。

☆回復期リハビリテーション病棟紹介☆

2013年10月1日 新館2階に回復期リハビリテーション病棟がオープンし、4か月が経ちました。入院対象疾患は、大腿骨骨折術後、腰椎圧迫骨折、脳卒中などで、発症から2か月以内に入棟していただいています。

病棟内にリハビリテーションルームを備え、家族の方にもリハビリの状況が見学できるようになっています。

また、刺激の少ない入院生活の中で、気分転換ができるよう病棟内でのレクリエーションを開催しています。他の患者様やスタッフとふれあい、普段とは違う笑顔や発言が見られ、和気あいあいと過ごしていただいています。

写真は、クリスマスやお正月の飾りを作成している風景です。



<編集後記>

新病棟がオープンし4か月が経ち、新たな取り組みや様々なイベントが開催されています。今後も、皆様のお役に立てるような話題を取り入れながら、更にパワーアップした第二協立病院をご紹介します。第3号担当 園 愛子



第二協立病院 ニュース

第三号

発行日 2014年2月



妊産婦

ふれあいフェスタ開催しました

1階北病棟（産婦人科）

平成26年1月26日（日）産婦人科主催でふれあいフェスタを開催し、24名の方が参加されました。

どんな先生に診てもらえるの？病棟の雰囲気は？お産入院中の生活は？等々の疑問についてお答えしていきまひました。参加された方からは「病棟のことを知ることができてよかつたです」「不安に思っていたことを解消することができました」との声を頂き、ご好評でした。今後も、ふれあいフェスタを実施し、妊婦さんや地域の方々との交流を大切にしていきたいと思ひまひます。

【病棟見学】



普段は見学することのできない外来診察室・病棟を見学しました。「きれいな病棟ですね」「この場所<LDR>でお産ができるんですね」とみなさん興味津々でした。



【相談コーナー】



医師・助産師・栄養士・理学療法士それぞれが丁寧。「ゆっくり話ができよかつたです」とご好評

【マタニティ・ヨーガ】



一般の方、妊婦さん、赤ちゃんと一緒に参加された方・・・などなど、たくさんの方が参加されました♪

【母子手帳の表紙づくり】



オリジナルの母子手帳を作成することができました。



【パネルコーナー】

～胎児の成長～

ひとつの精子と卵子が結びつき、できた受精卵。その受精卵が、無事に子宮内膜に着床して妊娠が成立します。お母さんのお腹の中で、新しい「いのち」の誕生です。

着床後、子宮の中で「胎嚢（たいのう）」という袋に包まれ、まだ人間とはほど遠い「胚（はい）」と呼ばれる球状から楕円のような形をしている、お腹の赤ちゃん。

お腹の赤ちゃんは、その後どのような過程をたどり、産まれてくるのでしょうか。ここでは、そんな赤ちゃんの成長過程をご紹介します。



<新生児の命を守る院内研修会>

産科病棟の運用開始を控え、2013年10月21日に大阪医科大学周産期センターの荻原享医師を講師に迎え、新生児管理の院内研修会を行いました。テーマは「出生直後から退院までの成熟児診察のポイント」と題して蘇生人形や画像を用いた講演でした。

出生後は胎外生活に適応した呼吸循環動態から劇的に切り替わらなければなりません。しかし、時には吸引や刺激などの医療サポートを要します。さらに救命のために本格的な蘇生手段（胸骨圧迫、薬物治療、気管挿管）を適切な処置しなければ、不幸な転帰をとるか、重篤な障害を残す場合もあります。出生直前まで出生後の緊急事態を予測できないこともまれではありません。仮死状態を呈した赤ちゃんを適切に救命するために、全てのスタッフが標準的新生児蘇生法の理論と技術に習熟しておくことは重要です。新生児が何らかの処置を要するかを判断する基本的な診察法や観察法について解説され、蘇生法の実習も行い、非常に役立つ研修となりました。当院で出生した新生児を注意深く管理し、異常時には周産期センターへの搬送時期を的確に判断することは、私たちの重要な責務です。



小児科 山城 國暉

川西でインフルエンザが流行しています！！

感染対策委員会

寒さ厳しくなり感染症対策強化季節となりました。今年はインフルエンザやノロウイルスの発症なく新年を迎えることができました。昨年度当院でもインフルエンザが流行し患者様・職員とも大変な思いをしました。この経験を活かし今季節は早期から入院中の患者様やこれから入院される患者様にはワクチン接種を呼びかけています。



新設シリーズ:産科豆知識「妊婦と喫煙」

喫煙は妊婦に悪い影響があることは、皆さんもご存知とは思いますが、

妊婦が喫煙すると、胎盤の血流量が減少し、胎児への酸素や栄養の供給が低下します。また一酸化炭素が胎児血中に移行し、胎児を更に酸素欠乏状態にします。

妊婦がタバコの煙を吸うと、「喫煙のたびに胎児の呼吸運動が減少したり、停止することもあります。」また、「早産流産や前置胎盤、早期剥離、出血、破水の増加」「低身長・低体重児、先天異常の増加」「乳幼児突然死症候群(SIDS)や小児喘息の増加」などが起こります。

胎児の発育、将来を考えれば、妊婦の喫煙は許されません。加えて、周囲の人たちも絶対にタバコを吸ってはいけません。妊婦とその家族に対し、きちんとしたタバコの情報を伝え、喫煙防止、禁煙指導がなされなければなりません。



Green Leaves mall 売店オープン

平成25年9月に南館1階（正面玄関すぐ）にて新しく売店『グリーンリーフスモール』をオープンしました。取扱い商品は、飲料・菓子・弁当などの食料品から、入院生活に必要な日用雑貨及び、衛生材料・医療材料まで豊富に取り揃えております。また、定期的に各種フェアや特売セールなどを実施しております。



【営業時間】
平日 9:00~17:00
土曜 休業日
日祝 休業日

ご利用して頂く全てのお客様に満足して頂き、未永く御愛顧頂けるよう努力して参ります。皆さまのご来店を従業員一同、心よりお待ち申し上げます。

秋祭り開催！！

H25年11月28日に第二協立病院秋祭りが開催されました。

昨年は、新病棟建築のために秋祭りを見合わせましたが、今年は何とかなし遅れて開催することができました。

今回のメインとして、大阪教育大学付属高等学校の生徒さん達が、弦楽器によるオーケストラを披露してくださいました。約40分程度ではありましたが、なじみのある曲を演奏していただき、患者さん達も日常を忘れて楽しまれていました。その他にも、綿菓子や輪投げ、ヨーヨーすくいなど催しで楽しいひと時を過ごされました。中には、ヨーヨーすくいでも両手いっぱいには持ちきれない位にすくっていた患者様もいらっしゃいました。患者さんたちの笑顔がたくさん見られた一日でした。今後も続けていきたいと思っております。

